



資料館だより

No.39
2012年
1月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/ecomuse/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

長期プログラムで 中国環境NGOを受け入れました 2011年12月1日(木)～12月5日(月)

中国の環境問題のこど、耳にする事が多くなっていますよね。近年、中国では環境NGOが力をつけて、企業や行政と交渉をしたり、市民の環境意識を高める活動を続けています。これまで、あおぞら財団が訪中して交流していましたが、今回は長期で中国環境NGOのメンバーを迎えることとなりました。



国道43沿道にて

公害被害者の話を聞くだけでなく、関西電力や大阪府、環境教育を実施している保育所など、いろいろな場所での研修を行いました。また、中国環境NGOが行っている公害を止める活動を日中学生セミナー(12月3日)で話をしてもらいました。Apple社の汚染について白雪姫の劇を演じて告発したり、ユニークでパワフルな活動でした。



おひさま発電見学
(ポップ保育園/東大阪市)

これからもNGOが手をつなぎ、市民力を高めて環境を良くしていきたいと思います。

【メンバー】(敬称略)

李 力 環友科学技術

曾祥斌 自然之友武漢グループ

楊建初 広東道恒環境保護協会

李春華 南京緑石環境行動ネットワーク

王林生 河南沈丘 農民(汚染被害者)

郭懐亮 「一線NGOのホーム」シンセンWorkstation

ほか2名

中国の環境NGOの活動を知りたい方はこちら

(日本語サイト)

http://www.enviroasia.info/news/news_mlist.php3//J/5/

●天野が語る、この資料●

「坂和弁護士資料について」

坂和章平弁護士資料は 全部で3560点、資料箱の数で14あります。坂和弁護士のこの資料の多さにまず驚きますが、「地域別 風向 風速別のSO2の濃度測定データ」や「季節別 高度別SO2濃度測定データ」は多くの作業者の手作業で一つ一つの測定値を積み上げていく、気の遠くなるような測定記録の集積でした。この地道なデータの積み上げが、損害の実態を法廷の場で被告側を迫っていく重要な知見でした。



パフ解析の資料

「弁護団議事録」からは準備書面の構成が、繰り返し実施された弁護団自身の合宿や学習会、6つの班に分かれた研究会での集団的思考の結果であると知ることができます。おそらく被告側も猛烈な研究会を積み上げていたのでしょう。当然被告側は、当時「最高水準」とされていた弁護士や研究者を組織した弁護団であろうと想像できますから、この論戦の歴史は貴重な法廷論争史の新しい地平を切り開いたことは間違いのないでしょう。だからこそ、40年を過ぎた今現在でも中国や韓国をはじめ、外国からの法律家が西淀川公害訴訟の全体像を学びに来られるのだと思いました。

弁護団の訴訟にかける思いを探していたところ、「西淀川公害裁判 全面解決へのあゆみ」西淀川公害原告団・弁護団(1998年10月3日)に「到達藩(*班ではなく始末記)として書き残されていました。

「塚谷先生の「パフ解析」という新しい方法での立証は、京都大学の天才塚谷先生と、スーパーコンピューターの登場という条件がそろって初めて出来ることで、こんな立証をしたのも西淀訴訟だけでした。」

法律家であっても、気象や疫学・歴史や道路政策については「素人」の弁護士さんが、研究者の協力を組織し、運動団体やマスコミ、医師や教育関係者と提携した世論の構築により法廷を包囲することに成功した西淀川公害訴訟の偉業を、分かりやすく次世代に語り継ぐ必要性を実感する資料整理作業でした。(資料整理スタッフ 天野憲一郎)

